

コロナ禍ならではの 授業実施例

～生活科学概論～

お茶の水女子大学の生活科学部は、文系・理系の枠を超えて、幅広い視点から、生活を科学する学部です。学部共通科目である「生活科学概論」では、毎年1つのテーマを決め、分野の異なる教員からそのテーマについて、講義そして討論する授業です。コロナ禍ならではの、学ぶべきこととして、今年度は「コロナと生活」をテーマに授業を行いました。

授業の概要

生活科学部の5つの学科・講座の教員が担当し、最後は、講義内容を踏まえて、「afterコロナの時代に生活科学はどのような貢献ができるか」について、全体討論を行いました。

pick up講義：「マスク」について、文系・理系の視点からの講義がありました。まずは、生活科学部だからこそこの授業です。担当の雨宮先生、難波先生は授業の内容をご紹介します。

01.オリエンテーション

02.コロナによる食生活の変化

(担当：赤松、食物栄養学科)

03.with/afterコロナー身を守る繊維製品

(担当：雨宮、人間・環境科学科)

04.コロナと精神衛生、リスク認知

(担当：高橋、心理学科)

05.日本におけるスペイン風邪とマスク

(担当：難波、人間生活学科生活文化学講座)

06.Covid-19感染症の

社会経済に与える影響と政策

(担当：大森、人間生活学科生活社会科学講座)

07.コロナにおける健康食品の広告

(ゲストスピーカー：奥原、東京大学)

08.ディスカッション

with / afterコロナー身を守る繊維製品

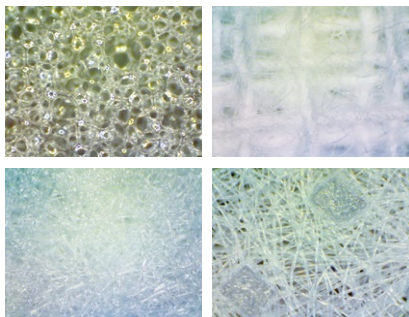
担当：雨宮 敏子(人間・環境科学科助教)



生活材料の中でも特に衣に関わる繊維を専門としています。担当初回はコロナ禍の衣生活への影響について、衣料品の生産販売や消費活動の変容など、消費科学的な視点で紹介しました。翌週は、身をまもる繊維製品をテーマとし、身近な存在となったマスクについて、材料や構造、捕集の仕組み、性能評価方法を中心に説明しました。後の回で、難波先生が文化的立場からマスクの話をするのを念頭に、異なるア

プローチで話ができればという狙いもありました。まず、ガーゼマスクを分解して1枚から15枚まで重ねた様子、ポリウレタンマスク、ポリプロピレン製の不織布マスクを同倍率の拡大画像で、ウイルスや花粉の直径と共に示しました。学生のコメントでは、不織布マスクの材料を初めて知った人が多く、ウレタンマスクの粗密さや、捕集の仕組みとして繊維間の空隙と粒径の関係だけでなく繊維表面への吸着が関わっていることに驚いたとする記述が多くみられました。どの分野においても製品を構成する材料や性質を知ることが重要で、関心を持ってほしいと思うと同時に、教育する側としての工夫の必要性も感じました。最後に、関連研究や、マスクやアクリル素材の大量廃棄が環境に与える影響について触れました。各分野の教員がそれぞれの視点で講義する本概論全体を通して、生活科学の奥深さや楽しさを感じ、物事に対する多角的な捉え方が身に付くことを期待します。

左上：ウレタンマスク、右上：ガーゼマスク(15枚重ね、一般的な綿ガーゼマスク)、左下：花粉・ウイルス飛沫対策用不織布マスク、右下：特に花粉・ウイルス飛沫対策をうたっていない不織布マスク。一口に不織布マスクと言っても目の粗いものなど色々あり、不織布であれば何でもよいということではない。



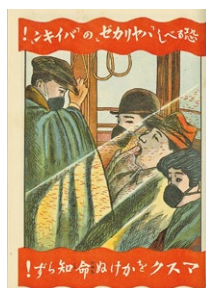
日本におけるスペイン風邪とマスク

担当：難波 知子(人間生活学科生活文化学講座准教授)



私の専門は服飾史なので、感染症とマスクの歴史を授業で取り上げました。日本で感染予防のマスクが普及したのは、今からおよそ100年前にスペイン・インフルエンザが大流行したときです。日本国内で45万人を超える死者が出たといわれています。当時はまだ細菌よりも小さいウイルスは発見されていませんでしたが、飛沫により感染が引き起こされることが分かっていました。そこで政府は「人の集まっている場所」でマスクを付

けることを呼びかけました。一般市民にマスク着用を促すためにポスターが作成されたり、貧困者に無償でマスクを交付した自治体もありました。昔のマスクは「白」というイメージがあるかもしれませんが、明治期に輸入されたマスク(呼吸器「レスピレーター」)は「黒」でした。インフルエンザが流行した大正期には、別珍(ビロード)や革製のもの、エンジヤや紺、茶色などさまざまな色のマスクも登場しました。医学的な知識や技術は当時と現在とは大きく異なりますが、スペイン・インフルエンザを題材とした小説を読むと、未知の感染症に対する不安やそれに対する人びとの行動に共感を覚えます。これまで人びとがどのように感染症と対峙してきたのか、歴史を振り返ってこれからの感染症との付き合いを考えてみるのもよいでしょう。



左：大正9年に作成されたマスク着用を推奨するポスター
(国立保健医療科学院図書館所蔵/内務省衛生局著、流行性感冒、1922.3.)



右：最高級婦人用ミツワマスク(個人蔵)

Voice

受講生の声



生活科学部 人間生活学科1年

黒川 清楓

生活科学部の様々な分野の先生が、コロナや生活という共通の切り口から色々な話をしてくださり、改めて私たちの暮らしについて考えることができました。理系や文系という枠組みにとらわれず複数の視点から生活を見つめ、色々な学科の学生の多様な意見を聞くことができ、有意義な時間でした。



生活科学部 人間・環境科学科1年

菅野 萌々寧

自分がこの一年感じてきた変化や不安に關してわかったり疑問が膨らんだり、自分の生活を多角的に見るような授業でとても面白かったです。今回持った視点を自分の生活や学習に生かしていければと考えています。